

化学委員会（第 26 期・第 19 回）
化学企画分科会（第 26 期・第 10 回） 合同会議

議事要旨

日時：令和 8 年 6 月 11 日（火） 11:30～12:00

ハイブリッド会議

出席者（現地）：岡本裕巳、北川宏、福島孝典、相田美沙子、菅原洋子、茶谷直人、山本浩史

（オンライン）：石原一彰、北川尚美、小島優子、玉田薫、三浦佳子、関根千津

欠席者：菅裕明、鈴木朋子、高柳大、君塚信夫、所千晴

議事：

（１）公開シンポジウム"AI for Chemical Sciences"について

会議当日（令和 8 年 6 月 11 日）午後に開催する公開シンポジウム"AI for Chemical Sciences"について、プログラムと、シンポジウム最後に行う総合討論の方針について確認した。総合討論では鈴木委員が司会を務める予定となっている。各講演者から提供された講演内容の概要資料に基づき、鈴木委員が議論進行の方向性の大枠の案を作成しており、これを議論の契機とすることを確認した。ただし、実際の総合討論の場では、この案に拘泥することはなく、議論の方向性によって臨機応変に対応することを共通理解とした。

（２）今後の活動について

・化学委員会、および傘下分科会の合同会議・分科会について

例年、年末（12 月下旬）に、化学委員会と傘下分科会の委員が一堂に会する合同会議、および各分科会を開催している。今年は 10 月に 26 期から 27 期に切り替る時期に相当し、9 月末に一旦全ての分科会を解消した上で、10 月に分科会の設置手続きをすることになる。その前提で、年末の合同会議を開催するかどうかの議論を行った。議論の結果、年末の合同会議は行うのが望ましいとの意見が大半となり、例年通りこれを開催する方向で検討することとした（27 期の化学委員会への申し送り事項）。日程については別途調整することとした。

（３）その他

・公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた水素の多面的な利活用～第 2 回 水素を使う～」について

材料工学委員会が中心となり、表記シンポジウムを令和 8 年（2026 年）9 月 1 日（火）にハイブリッド形式で開催する計画が進んでいる。物理学委員会、化学委員会、総合工学委員会、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会の共同主催とすることが想定されており、材料工学委員会から化学委員会が共同主催に入ることの可否についての打診があった。化学委員会として、共同主催に入ることを了承した。

・第三部附置理工系博士人材育成分科会で取りまとめ・発出予定の「報告」について

理工系でも分野によって博士人材のおかれている現状や課題が異なる状況を記録しておくことも分科会として重要であるとの認識から、第三部の各分野別委員長に「所感」の原稿の依頼があった。次のような項目、1. 当該分野の博士人材育成に関する近年の現状・課題；2. 当該分野の博士人材に期待される能力や評価軸；3. 当該分野の博士人材育成に向けた取り組み例の紹介、が想定されている。この取りまとめにあたり、岡本委員長から化学企画分科会委員の数名に情報提供のお願いをしたい旨の発言があった。

以上